

特集

会員へのメッセージ及び本会新役員体制について



感染対策を行い、「これから手帳」を包括センターへ普及啓発される小山新会長



本会非公式フクロウの大福ちゃん
自立の木で暮らしながら、これから手帳を
広める旅をしています。

これから手帳の説明会は、市町単位の包括センターでご希望があれば、お伺いさせていただきますので、お気軽に事務局までお問い合わせください!

CONTENTS

- 会員へのメッセージ及び新役員体制について 会長 小山 峰志 …………… P02 ~ 03
- 活動報告 広島市翠町地域包括支援センター …………… P04
- 学びのページ (公社) 広島県社会福祉士会 …………… P05
- 私のまわりの輝きさん 社会福祉法人正仁会 あいあいねっと …………… P06 ~ 07
- 研修報告「リーダー研修」 …………… P08 ~ 10



広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会 会長 小山 峰志

コロナ禍の中、地域のあらゆる機能が影響を受け、多くの不安を抱え混乱の中でスタートした 2020 年度も、もう半分を経過しようとしています。

新たに会長としてスタートして 5 か月を経過しましたが、コロナ禍を理由に会の運営を滞らせるわけにはまいりません。各委員会も 7 月に入りオンライン会議等を活用しながら積極的な取り組みが始まったようです。昨年度末の役員会・総会から書面決議が続いていましたが、8 月 20 日ようやく役員会を開催することができました。全国組織から離れ広島県単独の協議会として 2 年目を迎え、今後の会の在り方や、担うべき役割などを共有し、県や市町との連携を深め、より地域に根差した協議会として会員センターの支援のために活動を進めていくことを確認いたしました。

さて、広報委員会より原稿の依頼をいただき、会員の皆様に「お伝えしたいこと」と思案いたしました。今回「地域包括ケア」の生みの親として誉れ高い山口昇前会長の後を受けての会長就任となり誠に力不足を感じているところですが、それ故に会員の皆様の中には私のことを知らない方が大多数ではないかと思いました。そこで、この度、少しでも知っていただく機会になればと、紙面を借りて簡単に経歴について自己紹介させていただくことにいたしました。

本職は薬剤師…でした。昭和 55 年に大学を卒業し、一般病院で 6 か月、その後精神科病院で 13 年間薬剤師として勤務し、多くを学び多くの課題も見つけました。そして志願して老人保健施設へ異動、支援相談員として、また在宅介護支援センターの所長としての勤務が始まったのは平成 6 年のことです。平成 10 年には社会福祉士資格を取得しましたが、この頃より非常勤講師（ケアマネジメント）などの依頼が入るようになり「頼まれたことは断らない」をモットーに引き受けていると大変なことに…広島県在宅介護支援センター協議会の研修委員会にはじめて参加したのも平成 11 年でした。平成 13 年からは講師が見つからないとの急な依頼を「2 年間だけなら」と引き受けて、大学の福祉学科の講師と二足のわらじ状態に、ところが「学生は 4 年間在籍するのに…」とお世話になっている先生に諭され、法人の理解もあり 4 年間在籍することに…卒業生が活躍しているのは喜ばしいことですね。

平成 18 年地域包括・在宅介護支援センター協議会となってからは協議会から離れることになりましたが、平成 20 年に再び研修委員として協議会の活動に参加することになり、翌年からは理事として当協議会の運営に携わることになりました。時を同じくして 21 年からは広島県社会福祉士会の会長を 2 年間務めることにもなり、この頃がこれまでの私の人生の中で一番忙しかったころかもしれません。社会福祉士会では弁護士会との高齢者虐待専門職チームの立ち上げや地域生活定着支援センターの開設、会の公益社団法人化の時期にあたります。福山から広島への往復が頻繁でした。

その後も、当協議会や広島県老人保健施設協議会の立場で県内の様々な委員会等への参加、研修講師の機会等をいただきながら、協議会の活動としては研修委員の皆さんと介護予防・自立支援多職種ネットワーク推進会議の設置により専門多職種との関係を深めるなど地域包括ケアの深化に向けて取り組んできているところです。

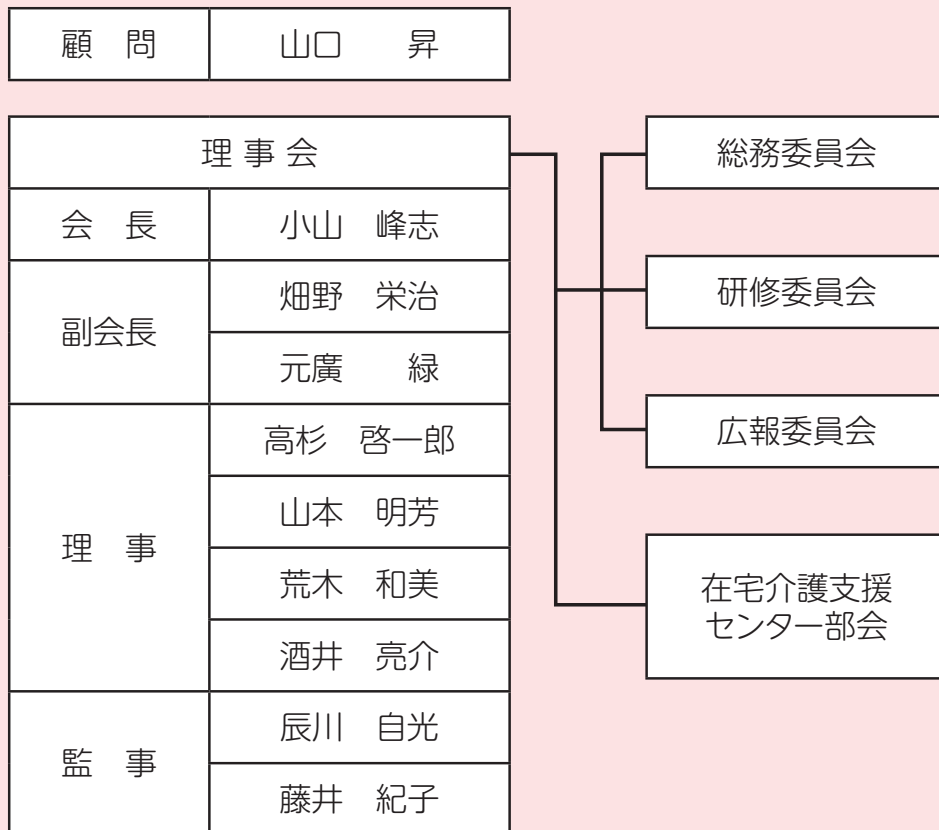
現在、医療法人 永和会に勤務 39 年、老人保健施設かなえ、在宅介護支援センターかなえの管理者として勤務しています。

「頼まれたことは断らない」の根拠は、「できないとわかっている物事を頼む人はいないだろう」という解釈です。できないのがわかっている頼むのは“いじめ”ですね。「少くらい難しいと感じても期待に応えてみよう」が原動力になりました。

これからも、もうしばらくは原則として「頼まれたことは断らない」を実践しつつ、これまで培ってきたことをしっかりと活かしながら、皆様の期待を裏切らないよう努力してまいりますのでご支援よろしくお願いいたします。

新役員体制 (任期:令和2年4月1日~令和4年3月31日)

広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会 組 織 図



次号では、委員会についてご紹介します!

広島市翠町地域包括支援センター

まずは、当包括支援センターの担当圏域の概要について説明いたします。担当エリアの高齢化率は24.1%と広島市の平均より低くなっています。圏域の特徴として、国道2号線や広電宇品線などの交通機関が整備された平地部にあり、商業施設も多く。医療機関も南北に広島大学や県立広島病院など高度急性期病院もあるため、全体的に、交通の便や医療面等生活利便性が高い地域といえます。しかし大河地区の黄金山山麓緩斜面地区は高齢化率が高く、商店や医療機関も少ないため、平地部まで移動距離があるなど生活上の支障が多くなっています。

このように小学校区単位でもエリアごとに課題は違っており、今回は町内会等单位での「地域ケア会議」を行っており、その様子を紹介いたします。以前から地域団体の各会長職に参加していただく「地域ケア会議」は開催していましたが、町内会によっては、年度で会長職の交代があり、情報の伝達や関係づくりに支障が出ていました。またデータ等を使った説明を主に行っていましたが、地域住民の皆様の活動は限界で、公的サービスで何とかして欲しいという意見が多くでていました。そこで、地域ケア会議の見直しを考え、事業を押し付けるような説明ではなく、現状の把握を目指し、今ある社会資源（活動、場所、人）を確認したうえで、地域のしたいこと、出来そうなことの気づきの促す会議を目指しました。

具体策として地図にシールとペンで書き込みながら視覚化を図り、確認した内容をホワイトボードではなく、地図上に示すことで情報の共有を図っています。井戸端会議の雰囲気にて、新規に参加される方も発言しやすいよう会議冒頭に買い物先等の生活状況を確認し、順次その他町内会やサロン等の活動状況を確認します。次に要援護対象として気になる独居、高齢夫婦世帯に印をして情報収集しています。あわせて地域の世話人状況も確認します。なお地図は馴染みのある新聞社の折り込み地図を使っています。このような作業を経て、地域の困りごとを一緒に共有、意識付けしたうえで、各事業の説明と必要性の認識を図りました。

毎年度開催することにより、地図上で「独居の赤印が増えた」や「夫婦世帯の青印から赤印にかわった」等の変化を視覚的に体感出来るため、わが地域に活動は必要ないと思われていた方も危機感を感じられます。また初参加の方や、名前が思い出せない場面でも地図を見ながら、「この方は最近様子が気になる。」「この場所はよく人が集まる。」等の具体例から会議に参加しやすく、積極的な発言が増えています。特に地域交流や予防の意識付けに気づきの発言が多く、見守り活動や介護予防拠点事業に繋がる事例が多くありました。

今年度はコロナ感染症のより地図を囲んだ「密になる状態」が困難であるため、昨年度まで活用した地図をプロジェクターで映写し、お互いが離れた場所から拡大した地図を見ながら発言する形式に変更して取り組んでおります。そこから出た課題を話し合う場合はZOOM等の活用も検討し、地域団体の方々に使用方法の個別支援も予定しています。今後も顔の見える場づくりについて感染対策を意識しながら対応していきたいと考えております。

地域ケア会議の様子



●	独居高齢者
●	高齢者世帯
●	支援が必要な高齢者 (認知症、障害等)
○	支援者(関係者)

広島県社会福祉士会
地域包括ケア推進委員会 長谷川 佳子

テーマ 「社会福祉士として…」

広島県社会福祉士会で「地域包括ケア推進委員会」に所属しております長谷川です。

前職は病院で献立を立て栄養指導をしていました。そもそも料理が嫌いな自分がこの職を選んだことが間違いだったのかもしれませんが。当時、「好きなものを食べれんのんなら、長生してもしょうがないわあ。」「ハンバーガーやカップラーメンが食べたいんよ。」と言われる患者様に対して、「私もそうだよなあ。」と心の中で呟きながら、そのためにどうしたらいいかを考えるのではなく、うわべだけの指導を行っていた時期がありました。そんな、自分自身に挫折し、寄り添いの支援を求めて、前職とは異なる介護分野で働き始めて20年が過ぎようとしています。

さて、社会福祉士のお仕事ですが、高齢、障害、児童、医療と幅広く活躍をしています。最近では、多様なニーズに伴い、司法分野や独立型社会福祉士事務所を立ち上げている人も増えました。

社会福祉士は、介護・医療・行政など業界の垣根を超えたところで働き、横のつながりを活かしネットワークを構築できる存在です。「地域共生社会の実現」というキーワードの中で社会福祉士は相談に応じる「ソーシャルワーカー」であり、地域支援の「コミュニティワーカー」でもあります。社会福祉士に求められる役割は、小さな生活問題から、自治体・地域社会、そして大きくは社会全般の変革や向上を考え働きかける事だと思えます。

現在、私は地域包括支援センターで働いています。自分の仕事を振り返ると前記のような実践する社会福祉士には程遠く、私の限られた知識と技術、そしてそれを実践する能力の低さの中、日々の小さな問題に右往左往しています。

利用者の受診同行の際、主治医から「当分、週3回の受診」と言われ、「この人が自宅から出るのに着替え、交通手段、お金、家族援助…、先生、もう少し受診を減らせませんか…」複数の課題が頭を駆け巡りながら、“命を考え、支援する医療”と“日々の生活を考える介護”が頭の中でせめぎ合うことが、しばしばあります。また、地域ケア会議の際に、住民の方から「国は年をとっても働ける人は働けと言う。できなくなってから地域にいる時間が増えるわしらに、もっと何かをしろというのか」と言われ、どう答えたらいいのかと悩み考え…そして凹むこともあります。

でも、そんな中で「あなたに会えてよかった」「ありがとう」という言葉に喜びを感じ、日々奮闘をしております。今より少しでも、気持ちの豊かさを感じられるであろう、すばらしき未来のために・・・と。



わたしのまわりの輝きさん
会員センターのまわりで輝いている人をご紹介します!

少子高齢化、貧困、食品ロス。日本、世界が抱える大きな課題を管理栄養士という専門職の経験を活かし『食』を通じて様々な団体と協力し、地域から取り組む!

原田さんが率いるあいあいねっとさんはそんな大きな課題に取り組んでいるにもかかわらず、利用者さんスタッフさんの笑い声がいつも事業所内で楽しそうに聞こえてきます。事業所を訪問するたびに新しい取組みをされていたり、新しい仲間が増えていたり、原田さんの社会課題に取り組む熱き魂に同じ志を持った様々な経歴をお持ちの仲間が集まってくる。私もその一人です。

広島市清和・日浦地域包括支援センター 永見 悠騎



第6回の
輝きさんは



社会福祉法人正仁会



あいあいねっと

代表理事 原田 佳子 様

■ フードバンクを始めたきっかけ

～ベテラン管理栄養士が痛感した無力感からの一念発起～

アメリカビジネス研修後、広島でのフードバンク活動のきっかけを模索している最中でした。

ある日、地域の基幹病院から紹介されてきた糖尿病から慢性腎臓病になった患者の栄養指導に当たった原田さん。同居のご家族は諸事情により料理が作れない。配食サービスはどうか? でも金額が高い。

管理栄養士として経験や研鑽をいくら積んでいても、経済的問題を抱える患者の前にはなす術がありません。

この時、原田さんは直観しました。フードバンクに提供された食品を使って高齢者の『食べる』を保障する。

ここに広島のこの地でフードバンク活動を行う意味がある! ここにニーズがある! と。

～想定外の連続から学んだ地域の様々な組織や団体と『繋がる』という発想～

『食べる』だけを保障しても高齢者の抱える問題は減りません。歳を重ねればそれだけ課題も増えていきます。高いところに手が届かない。腰痛で庭の草むしりができない。買い物に行くにも不自由等々・・・そこで考えたのは、地域の様々な公的私的な組織や団体と繋がり、そのネットワークの中で高齢者をサポートしつつ、「食べる」ことはフードバンクが担うという図式です。わかりやすく言い換えると、誰もが安心して暮らすことのできる地域づくりを行いながら、フードバンク活動を行い高齢者の『困った』に対応するというやり方です。そこで、生活困窮者支援団体だけでなく、地域づくりや地域活性化のために頑張っている団体にも食料を分配する仕組みを作りました。

■ **フードバンクとは**

食べ物の「いのち」を大切にするために、私たちができること。その方法の1つに、「フードバンク」があります。

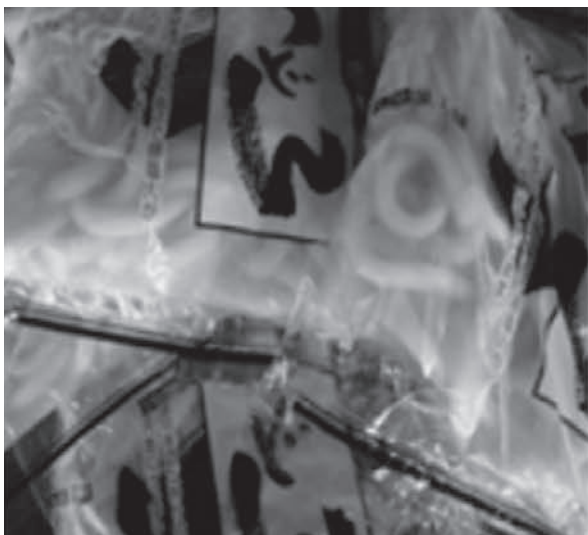
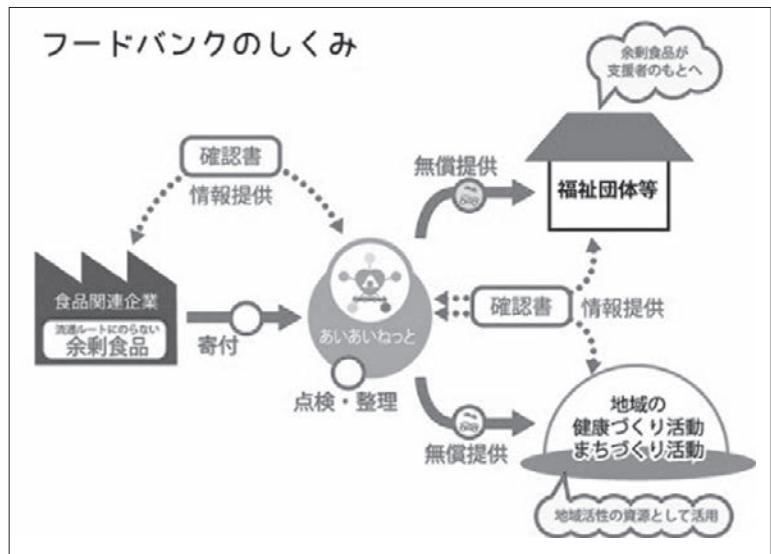
ご存知ですか？

- 「仕入れすぎた」「残った」・・・ただそれだけの理由で、賞味期限前の食べ物がたくさん捨てられていることを
- 形が悪い、不ぞろい=規格外というだけで、工場から1度も出ることなく、命を終える食べ物があることを
- 1つが傷んで、箱ごと捨てられてしまう果物があることを
- 箱が凹んだだけで、捨てられてしまうお菓子があることを

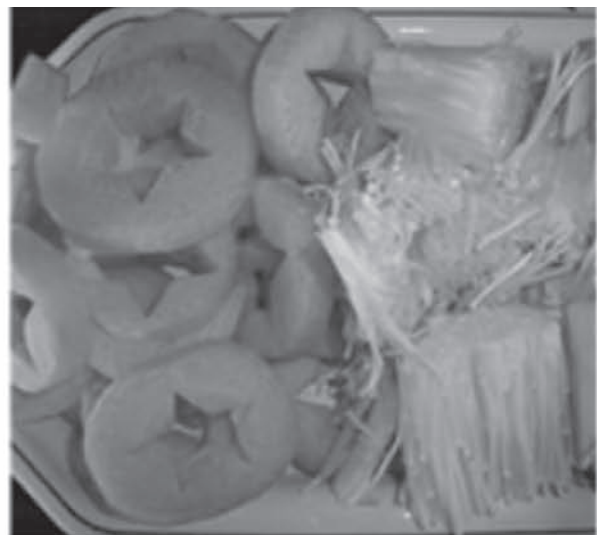
フードバンクとは、このような市場に出すことはできなくても、食品としての十分な安全性をもった”食べ物”を捨てずに活かす事業です。

私たちは、食品関連企業から、包装破損や印字不良その他の理由で、食べ物としては品質にまったく問題がないにもかかわらず、商品として扱えなくなった食品を無償提供していただき、点検整理して再生させ、それらを必要とする人たちを支援する福祉団体などに無償で分配します。

あいあいねっとはこの活動を通じて、廃棄されるはずだった食べ物を有効活用し、福祉団体を支援するとともに、「食と健康」について考え、ともに支えあい助け合う健康な地域づくりに貢献します。



重量不足で規格外のうどん



飾り切りのカット野菜

研修報告

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策に取り組み、9月2日「リーダー研修」、9月29日「生活支援体制整備事業研修会」、10月1日～2日「基礎研修」、10月5日「現任者研修」の4つの研修会を開催しました!

今回は、リーダー研修のご報告です!

令和2年度 リーダー研修

テーマ “その人らしく生きるためのACP”を支えるために

1. 目的 現在、地域包括支援センター職員や多職種のなかで、ACPの理解や学び、実践経験等に差があることが課題となっています。
このたびは、講義・行政説明・実践報告を通して、所属する地域、市町における課題を検討し、多職種連携で実践するACPについて学ぶ機会とします。

2. 主催 広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会

3. 日時 令和2年9月2日(水) 11:00～15:30
[受付] 10時30分～

4. 会場 広島県社会福祉会館 2階 講堂 (広島市南区比治山本町12-2)
TEL 082-254-3416

5. 受講対象 (定員50人)

- (1) 地域包括支援センター及び在宅介護支援センターの管理職
- (2) 居宅介護支援事業所等に勤務している主任介護支援専門員や医療福祉の専門職
- (3) 行政機関の関係職員等

※ お申込みは、先着順となりますが、定員数を超えるお申込みがあった場合は、つぎの人の受講を優先させていただきますので、ご了承ください。

- ① 本会会員
- ② 地域包括支援センター職員 (本会非会員)
- ③ 居宅介護事業所及び行政の職員等

6. 内容

	11:00	:30	12:30	13:30	15:30	
受付	開会	講義1	講義2	休憩	講義3 質疑応答	閉会

講義1 テーマ「行政説明」

講師 広島県 健康福祉局 地域包括ケア・高齢者支援課
地域ケア推進グループ 坂本 錦恵 氏

講義2 テーマ「福山東部におけるACPの取り組み」

講師 福山市地域包括支援センター南蔵王 センター長 高森 裕美 氏
福山市地域包括支援センター引野 管理者 高橋美律恵 氏
福山市地域包括支援センター坪生 管理者 今福 昌宏 氏

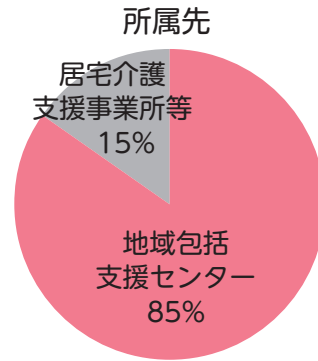
講義3 テーマ「リーダーとして考える、終末期医療とACP」

講師 広島市安芸市民病院 緩和ケア部長 松浦 将浩 氏
(安芸地区医師会ACP検討事業委員会委員長)

9/2 リーダー研修 アンケート結果

Q1. 所属先

地域包括支援センター	39
居宅介護支援事業所	7
合計	46

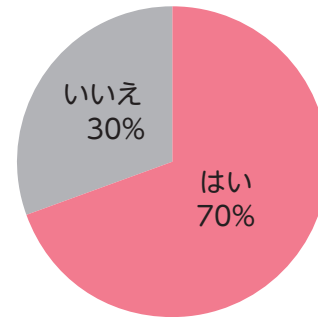


Q2. ACPの普及活動について

地域でACPに関する研修会や広報活動をされていますか？

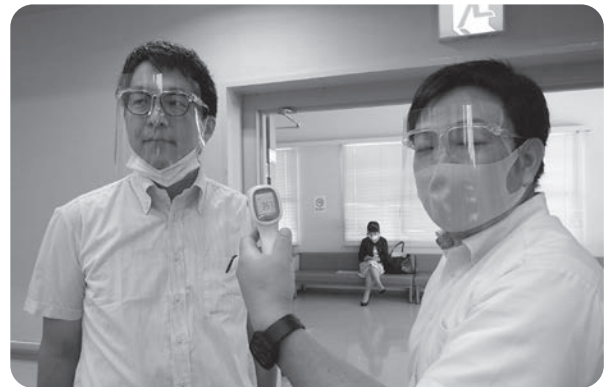
はい	39
いいえ	7
合計	46

ACPの広報活動をされているか



研修受講者の声

- ・専門職には浸透していると思うが、地域の方々はまだ名前も聞いたことがないと言われる方も多い様子。
- ・まだまだ元気に過ごされている方が多い中で、自分事として受け取ってもらえるような説明の仕方やポイントがあれば知りたい。
- ・これから手帳を広めていく予定で、現在、広報する準備をしています
- ・福山東部の三包括さんの取り組みは大変参考になりました。
- ・松浦先生の話は分かりやすく、また支援者の心得として参考にさせていただきます。先生のように寄り添った支援が行えるように自分を振り返りながら日々頑張りたいと思います。
- ・ターミナルケアの対応が多くなってきている状況からACPの重要性は高まってくると思った。



研修委員は、フェイスシールド着用で検温チェックを実施しました！



講義1の様子

研修報告

- ・ACP 支援者の心得が非常に参考になり実践していきたいと思いました。
- ・お元気な方への ACP の普及に関して少しイメージができました。
- ・自分のこれからの人生について考えるということは地域包括システムにおいても重要なことであり、地域や住民が考えるきっかけ、話ができる場づくりが必要だと改めて感じました。包括に期待される役割を意識し、今後の業務にあたりたいと思います。
- ・死のことを考えるのではなく、意思決定支援をどのようにしていくかということが専門職としては実践していくことを理解しました。
- ・大切な家族のために自分の命を考えるきっかけになった。その思いを持って相談等で紹介していきたい。

広報委員会からのお知らせ

広島県地域包括
在宅介護支援センター協議会
ホームページ

<https://shienkyou.jp/contents/index.php>



QRコードを読み
とってください



広島県地域包括 在宅介護支援センター協議会

検索

編集後記

新しい役員体制になり広報部会も新しい体制をスタートしました。いろいろな方々とお会いして一緒に仕事できるご縁を大切にしたいと思います。…………… 荒木 和美

新型コロナウイルスの猛威はまだまだ収束しそうにはありません。うがい手洗いとマスクの着用! 先ずは自己管理が必要ですよ。お互いに気を付けましょう。…… 若林 裕旨

新型コロナのなか、いろいろな場面でいろいろな工夫がなされていることに驚いています。人間って「すごい」と感動しきりです。…………… 藤井 紀子

これから手帳に自分のことを書いてみました。書けることが少ないことにビックリです。これから、ここから考えてみようと思いました。…………… 高森 裕実

健康診断の時期がやってきました。私は血糖値がやや高めなので気を付けてトクホのお茶を飲み続けてきました。美味しい秋の味覚を少々我慢して健康診断に臨みたいと思います。…………… 長谷川 忠弘

はじめして。新入委員の永見です。広報委員会を通じて、支援協を広く地域の方に認知してもらうため、一生懸命がんばりますのでよろしくお願いします! …………… 永見 悠騎